

## 「元始女性は太陽だった」のか？

### In the beginning, Womankind was the sun - Weren't we?

嶋田美子 / 山本れいら / みょうじなまえ



「『元始女性は太陽だった』のか？」は、日本という国家が歴史的に、あるいは現在進行形で女性の身体とセクシュアリティをどのように管理してきたかを問う展覧会です。本展はニューヨークに拠点を置く非営利団体apexartによる国際キュレーション公募で採択され、apexartから本展キュレーターの山本れいらに委託されるかたちで実施されます。会場はKOTARO NUKAGA Three (TERRADA Art Complex | 3F)、会期は2025年5月17日～6月14日です。

(5月17日にはオープングレセプションを開催予定です)

本展では嶋田美子、山本れいら、みょうじなまえの3人の女性アーティストの作品を通じて、歴史への批判と未来への思索によって家父長制的ナラティブに挑みます。

展覧会のタイトルは、日本のフェミニスト運動の先駆者のひとり、平塚らいてうが1911年に雑誌『青鞥』に寄稿した記事の一節から引用されています。その中でらいてうは近代日本における女性の従属的地位を糾弾し、女性の抑圧された状態を月に、自立を太陽に例えました。それから一世紀以上が経過した現在、2024年のジェンダー・ギャップ指数で日本は146カ国中118位であり、憲法上の保護があるにもかかわらず構造的な不平等が根強く残っていることを浮き彫りにしています。近年でも、ある政治家が若い女性に出産を促すために30歳以上の女性に子宮摘

出を義務付けるべきだと提案し物議を醸しました。こうした発言の背景には、国家や社会が女性の身体を管理することを当然視するような価値観が依然として存在します。

本展は日本のこのような現実に応答するものであり、制度化された女性の身体への管理に異議を唱え、女性がもはや月に例えられるような従属的な役割に縛られない社会を再想像するよう鑑賞者に促します。「日本の女性は真に自立していたことがあったのか？ なかったのだとすれば、どうすれば太陽のような解放を達成できるのか？」嶋田、山本、みょうじの作品を通して問いかけます。

■キュレーター

山本れいら

1995年、東京都生まれ。日本の社会政治的状况を探究し、フェミニズムおよびポストコロニアリズムの視点を反映させた作品を制作している。彼女の作品は、日本の原子力史や戦後の制度的性暴力を批判的に考察し、またアニメやマンガ文化をフェミニズムおよびクィアの視点から再解釈する試みを行っている。

■アーティスト

嶋田美子

1959年、東京都生まれ。1982年にスクリプス大学を卒業し、2015年に英国キングストン大学で博士号を取得。嶋田は、文化的記憶やアジア太平洋戦争における女性の役割を加害、被害両方の視点をテーマに作品を制作している。版画、映像、パフォーマンス、リサーチやアーカイブの幅広い表現通してテーマの探求を行う。

山本れいら

1995年、東京都生まれ。日本の社会政治的状况を探究し、フェミニズムおよびポストコロニアリズムの視点を反映させた作品を制作している。彼女の作品は、日本の原子力史や戦後の制度的性暴力を批判的に考察し、またアニメやマンガ文化をフェミニズムおよびクィアの視点から再解釈する試みを行っている。

みょうじなまえ

1987年 兵庫県生まれ、2019年に東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻を卒業、2019年、東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画に入学。幼少期の記憶をはじめとする自身の経験をもとに、女性の身体、ジェンダー、アイデンティティを探究するインスタレーション作品を制作。文化やコミュニティが自己の定義に与える影響、そしてジェンダー・アイデンティティの枠組みが引き起こす歪みに着目し、社会がこれらのアイデンティティをめぐる概念をどのように形成するのかを表現を通じて問いかける。

■ イベント情報

イベント1：「『元始女性は太陽だった』のか？」ー3Dバーチャルツアー

出演：山本れいら

開催日: 2025年5月17日（土）

開催場所: オンライン（Instagram Live）

使用言語：英語

詳細：Instagram Liveを使用した英語での展示ツアー。

イベント2：「『元始女性は太陽だった』のか？」ーフェミニズムアートの過去を再定義する

出演：笠原美智子（ゲスト）、嶋田美子、みょうじなまえ、山本れいら

開催日：2025年5月24日（土）

開催場所：Kotaro Nukaga Three（仮）、オンライン配信を予定

使用言語：日本語

詳細：長野県立美術館館長の笠原美智子さんをゲストに迎え、本展覧会の出展作家を交えて、フェミニズムアートがいかにかに歴史（過去）を再定義するかについてディスカッションを行う。また、90年代のジェンダー展の勃興から現代までの変遷を辿りながら、フェミニズムの視点からキュレーションを行うことの歴史的な重要性を議論するトークセッション。

イベント3：「『元始女性は太陽だった』のか？」ーフェミニズムアートと現代日本社会

出演：清水知子（ゲスト）、近藤銀河（ゲスト）、嶋田美子、みょうじなまえ、山本れいら

開催日：2025年5月25日（日）

開催場所：東京藝術大学上野校舎、オンライン配信を予定

使用言語：日本語

詳細：東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻清水研究室と共催での一般公開特別レクチャー。現代日本社会とフェミニズムアートをテーマに、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授の清水知子さん、美術史家でアーティストの近藤銀河さんをゲスト講師に迎えるトークセッション。

イベント4：「『元始女性は太陽だった』のか？」ーフェミニズムアートの未来を想像する

出演：正路佐知子（ゲスト）、嶋田美子、みょうじなまえ、山本れいら

開催日：2025年5月31日(土)

開催場所：Kotaro Nukaga Three（仮）、オンライン配信を予定

使用言語：日本語

詳細：国立国際美術館主任研究員の正路佐知子さんをゲストに迎え、本展覧会の出展作家を交えて、未来の日本のフェミニズムについて議論するトークセッション。

イベント5：「『元始女性は太陽だった』のか？」－日本語展示ツアー（仮）

出演：山本れいら

開催日：2025年6月7日(土)（仮）

開催場所：Kotaro Nukaga Three

使用言語：日本語

詳細：本展キュレーター、山本れいらの解説による日本語での展示ツアー

■開催概要

グループ展「元始女性は太陽だった」のか？ (In the beginning, Womankind was the sun - Weren't we?)

会期: 2025年5月17日(土) - 2025年6月14日(土)

開廊時間: 11:00 - 18:00 (火-土) ※日月祝休廊

オープングレセプション: 2025年5月17日(土) 16:00 - 18:00

■会場

KOTARO NUKAGA Three

〒140-0002 東京都品川区東品川1-33-10 TERRADA Art Complex I 3F

■お問い合わせ

Apexart

Email: [maryam.ghoreishi@apexart.org](mailto:maryam.ghoreishi@apexart.org) (担当者Maryam Ghoreishi宛て、英語のみ)

URL: <https://apexart.org/yamamoto.php>

キュレーター

Email: [lyamam.art@gmail.com](mailto:lyamam.art@gmail.com)

KOTARO NUKAGA

Email: [info@kotaronukaga.com](mailto:info@kotaronukaga.com)

URL: [www.kotaronukaga.com](http://www.kotaronukaga.com)

TEL: 03-6433-1247